

(様式7)

保育方針、保育目標について

区分	実施方針、特徴又は工夫点、具体的計画
保育方針	<p>「健康で安全、安心な保育を目指して」</p> <p>乳幼児のために、健全で調和のとれた心身の発達を促し、豊かな人間性を身につけるために、保育指針にもとづいて保育を実施したいと考えています。</p> <p>また、保育を必要とする乳幼児が、一日の大半を過ごす施設なので、健康に留意し、事故や怪我のない安全な生活・保育に心がけ、保護者から「安全で安心して預けられる」と信頼される保育を目指しています。そのためには、乳幼児の毎日の様子について、保護者との情報共有が第一と考えています。「家庭調査票」を用意し、プライバシーの保護を前提とした上で、保護者より幼児の成育歴や病歴、既往症等を記入して頂き、入園前から毎年提出頂き、管理をします。加えて、日々の登園の「健康視診」はもちろんのこと、3歳未満児は毎日検温表と家庭との日々のお便り(お帳面)で健康・生活・保育のやりとりを行い、毎日一人一人の体調把握や健康管理に留意する所存です。</p> <p>そして、園常勤の看護師と嘱託医・嘱託歯科医とも連携を保ち、日々の健康で安全・安心な園生活を目指していきたいと考えています。</p>
保育目標 (基本的な保育課程など)	<p>◎健康で明るい子 ◎自立し自己充実できる子 ◎心豊かで思いやりをもち社会貢献できる子</p> <p>上記の保育目標を達成するために、年齢別に年間目標を設定して日々の保育にあたります。</p> <p>自由保育(インフォーマルエディケーション・オープン保育)の理念に基づき、子どもにひきずられることなく、ただ単なる放任保育でない「個性を開発し自主性を育てる保育」を行い、園全体が子ども・保育者・保護者も楽しい保育の場とします。</p> <p>3歳未満児に関しては、成育状況や個人差が大きいので、画一的な保育ではなく、一人一人を大切にし、成長・発達段階に即した保育に心がけ、日々成長の激しい乳幼児保育の研鑽・研修に保育士も努め</p>

ます。特に2歳児保育については、模倣期でもあるが自分本位の行動が激しいため、0・1歳や3歳以上児の関わりには保育上十分留意する。

身辺自立のできる3歳児は集団生活を意識させ、直接体験活動を経験する中で、自信を持たせていく。4歳児は友達と積極的に関わり、好きな遊びを自主的に見いだし、興味をもって、考えて遊べるように取り組む。5歳児は友達の存在を認め、連帯感を深めながら、自信を持って意欲的に生活をし、身近な自然や事象に興味関心を持ち、豊かな感性と探究心を高めながら、保育士も援助し共に育つ保育に努めます。